

平成23年度

海外福岡県人会子弟招へい事業

◎期間 平成23年7月10日(日)～ 20日(水)

◎主催 海外福岡県人会子弟招へい事業実行委員会

報告書

目次

Contents

はじめに	2
知事あいさつ	3
概要	4
参加者名簿	5
全体プログラム日程	7
プログラム内容	8
事業の総評	12
参加者等の感想	13
参加者レポート／子弟	15
参加者レポート／引率者	25
参加者レポート／福岡県移住者子弟留学生	31
福岡県の海外県人会について	34
実施要綱	35

Foreword

はじめに

平成23年度海外福岡県人会子弟招へい事業には、7カ国8県人会から25名の皆さんが参加されました。

平成20年度から始まりました当事業は、今年で4年目を迎え、これまでに12県人会から子どもたちを福岡へお迎えすることができました。

参加者の皆さんは、太宰府天満宮や小倉城を視察したり、梅ヶ枝餅作りや和太鼓、手すき和紙でのうちわ作り、大島の子ども山笠など様々な日本文化を体験したほか、那珂小学校では一日授業に参加して、同世代の子どもたちと一緒に日本の小学校生活を体験することができました。また、親戚宅にホームステイをした子どもたちは、親戚との交流を深めて、自分たちのルーツである福岡について学ぶことができました。

このプログラムを通して、子どもたちは、日本の文化、生活、習慣に触れ、また福岡の魅力を肌で感じたことで、以前にも増して福岡県に対する興味が深まったものと確信しております。これを契機に、参加者の皆さんが、もっと日本語や日本文化を勉強したい、もう一度福岡に来たいという思いを強くしてくれることを願っております。

また、参加者の皆さんが、本事業で得た経験を大切に、将来母国の県人会で中心的存在となり、日本・福岡県との更なる友好親善のために活躍していただくことを心から期待しております。

最後に本事業の実施にあたり、ご協力いただきました海外福岡県人会、福岡県移住者子弟留学生、ホストファミリーの皆様及び関係機関に、心からお礼申し上げますとともに、この事業の今後さらなる発展にご支援いただきますようお願い申し上げます。

平成23年12月
海外福岡県人会子弟招へい事業実行委員会

実行委員長 田 中 俊 太

Message

ごあいさつ

福岡県から海外に移住した方々とその子弟等で組織する「海外福岡県人会」は世界9カ国、21カ所に設置されています。福岡県の海外への移住の歴史は、1885年のハワイ移住に遡り、世界各国への移住者は、戦前、戦後を合わせると約5万6千人に達します。これは、広島、沖縄、熊本に次いで全国で4番目に多い数です。移住された方々は、それぞれの国で努力を重ねながら移住国の発展に重要な役割を果たされ、今日の確固たる地位を築いてこられました。



福岡県を理解し、応援してくれる海外福岡県人会の存在は、本県が国際社会の中で発展していく上で、かけがえのない貴重な財産であり、本県としても県人会の皆さんとの絆を強化することは非常に重要です。

一方、県人会では、会員の高齢化や世代交代の進行に伴い、日本語や日本文化を知らない世代が増えており、会員の減少や活動の停滞が懸念されています。このような中、県人会がさらに発展していくためには、活動の核となる若手人材を育成することが大変重要です。

本県では、これまで福岡県移住者子弟留学生の受け入れや周年事業への参加などを通じ県人会の活動を支援してきました。平成20年度からは、人材育成の支援を目的に、県人会の子弟を福岡に招へいし、日本文化の体験や同年代の子どもたちとの交流を通して、福岡に対する興味・関心を持ち、理解を深めていただく「海外福岡県人会子弟招へい事業」を実施しています。4年目を迎える今年度は、海外7カ国・8県人会から25人の子弟と代表者の参加を得ました。

これまで延べ105人の参加があり、参加した子どもたちが、福岡での体験について目を輝かせて家族の皆さんに披露しているという話や、福岡への留学を目指して日本語の勉強を始めた子どもたちがいるという話を聞いて大変うれしく思っています。

この事業に参加した子どもたちが、自分が福岡県出身者の子弟であることを誇りに思えるよう、そして、将来にわたって次代を担う若者の交流が進み、福岡と県人会子弟の母国をつなぐ原動力となっていくことを期待しています。

本事業の実施にあたりご協力いただきました関係機関の皆さまに深く感謝を申し上げますとともに、若い世代の育成に引き続きご尽力いただきますようお願いいたします。

福岡県知事

小川 洋

Outline

概要

1 目的

海外福岡県人会会員の子弟を福岡県へ招へいし、様々な体験を通じ、福岡・日本に対する関心や興味を高め理解を促すことにより、今後の県人会活動の一翼を担い、福岡・日本との交流の核となる後継者を育成すること、併せて県人会の活性化を図ることを目的としています。

2 期間 平成23年7月10日（日）～20日（水）

3 招へい者人数 7カ国25名 【内 訳】子弟16名、引率者9名

国名	子弟招へい数	引率者数
ブラジル連邦共和国	6	2
ボリビア多民族国	2	1
コロンビア共和国	1	1
メキシコ合衆国	2	1
ペルー共和国	1	1
パラグアイ共和国	2	1
アメリカ合衆国	2	2
合計	16	9

4 内容

(1) 同年代の子どもたちとの交流

大島小学校、那珂小学校、竹下太鼓との交流

(2) 福岡の魅力に触れる

福岡市内視察（福岡市民防災センター、博多山笠見学）、安川電機ロボット工場見学、北九州市内視察（小倉城見学、皿倉山帆柱ケーブル乗車体験）、太宰府天満宮見学等

(3) ルーツを探る

親戚宅、ボランティア宅へのホームステイ

(4) 日本文化の体験

日本語学習、大島山笠、手すき和紙のうちわ作り、梅ヶ枝餅作り、和太鼓体験

5 主催

「海外福岡県人会子弟招へい事業実行委員会」

構成団体：福岡県新社会推進部国際交流局交流第二課、福岡県新社会推進部青少年課、
福岡県教育庁教育振興部義務教育課、(財)福岡県国際交流センター

事務局：(財)福岡県国際交流センター

共 催：宗像市

後 援：(財)サニックススポーツ振興財団

Member List

参加者名簿

【参加者】 7カ国8県人会から子弟16名、引率者9名が参加しました

No.	県人会名	引率 ／ 子弟	氏名	性別	国名
1	ブラジル 福岡県人会	子弟	小西 エリキ 雄也	男	ブラジル
2			畑中 真恵 カロリーナ	女	
3			谷口 ノリオ パウロ	男	
4			行徳 アレックス	男	
5			南 せいじ アルトゥール	男	
6			松本 美穂 エミリー	女	
7		引率	南 美陽 ソフィア	女	
8			辻沢 成東	男	
9	ペルー福岡クラブ	子弟	フェルナンデス カミラ	女	ペルー
10		引率	ウシジマ ロシオ	女	
11	コロンビア 福岡県人会	子弟	ロドリゲス ミノル	男	コロンビア
12		引率	坂本 アルバ	女	
13	パラグアイ 福岡県人会	子弟	竹内 隆義	男	パラグアイ
14			湊脇 隼	男	
15		引率	鬼塚 理奈	女	
16	メキシコ 福岡県人会	子弟	ローサス めぐみ	女	メキシコ
17			サンタナ なつみ セシリア	女	
18		引率	飯田 美千子	女	
19	在ボリビア 福岡県人会	子弟	宮園 竜虎 フィデル	男	ボリビア
20			徳永 アルマンド 良一	男	
21		引率	川波 一幸	男	
22	ハワイ島 福岡県人会	子弟	エマーソン ケンジ	男	アメリカ
23		引率	クック ヴァン	男	
24	南加福岡県人会	子弟	馬場 みか ジャスミン	女	
25		引率	的野 健	男	

【福岡県移住者子弟留学生】

No.	県人会名	氏名	性別	国名
1	ブラジル福岡県人会	大友 池部 ルシアネ	女	ブラジル
2		田中 真理恵 シンチア	女	
3		篠崎 忠夫 ブルーノ	男	
4	ベレン福岡県人会	信重 真紀 アンジェラ	女	

「福岡県移住者子弟留学生とは」…専門の知識と、日本、そして福岡県についての理解を深めるために、福岡県内の大学に1年間留学している海外福岡県人会の子弟。

【活動グループ】

参加者と福岡県移住者子弟留学生で6つの活動グループを作り、プログラムに臨みました。

A グループ	子弟：畑中 真恵 カロリーナ 松本 美穂 エミリー 南 せいじ アルトゥール	引率者：南 美陽 ソフィア 留学生：篠崎 忠夫 ブルーノ
B グループ	子弟：行徳 アレックス 小西 エリキ 雄也 谷口 ノリオ パウロ	引率者：辻沢 成東 留学生：田中 真理恵 シンチア
C グループ	子弟：ロドリーゲス ミノル 竹内 隆義 淵脇 隼	引率者：坂本 アルバ 鬼塚 理奈
D グループ	子弟：フェルナンデス カミラ ローサス めぐみ サンタナ なつみ セシリア	引率者：ウシジマ ロシオ 飯田 美千子
E グループ	子弟：宮園 竜虎 フィデル 徳永 アルマンド 良一	引率者：川波 一幸 留学生：信重 真紀 アンジェラ
F グループ	子弟：エマーソン ケンジ 馬場 みか ジャスミン	引率者：クック ヴァン 的野 健 留学生：大友 池部 ルシアネ

Schedule

全体プログラム日程

期 日	時 間	内 容	宿泊場所
7/10 (日)		入国	グローバルアリーナ
11 (月)	午 前	オリエンテーション	グローバルアリーナ
	午 後	太宰府天満宮見学	
	夜	歓迎会	
12 (火)	終 日	那珂小学校との交流	グローバルアリーナ
	夕 方	竹下太鼓との交流	
13 (水)	午 前	知事公舎見学	グローバルアリーナ
	午 後	福岡市民防災センター見学 福岡市内見学	
14 (木)	午 前	安川電機ロボット工場見学	グローバルアリーナ
	午 後	北九州市内見学	
	夜	皿倉山帆柱ケーブル	
15 (金)	終 日	大島小学校との交流	グローバルアリーナ
16 (土)	午 前	八女伝統工芸館見学	ホームステイ
	午 後	ホストファミリーとの対面式	
17 (日)	終 日	ホストファミリーとの交流	ホームステイ
18 (月・祝)	終 日	ホストファミリーとの交流	ホームステイ
19 (火)	終 日	送別会	グローバルアリーナ
		県知事表敬	
		県議会議長表敬	
20 (水)		出 国	

Program

プログラム内容

平成23年7月10日(日)～20日(水)

<p>第1日目</p>	<p>10日(日)</p>	<p>◎入国 7カ国(ブラジル・ペルー・メキシコ・コロンビア・ボリビア・パラグアイ・アメリカ)から子弟16名、引率者9名が来福しました!</p>
<p>第2日目</p>	<p>11日(月)</p>	<p>◎午前：オリエンテーション 参加者とスタッフの自己紹介のあと、滞在中のスケジュールや諸注意を皆で確認しました。また、福岡県や日本語、日本のマナーについても一緒に学習しました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p style="text-align: center;">オリエンテーション がんばれ、東北!</p> <p>◎午後：太宰府天満宮見学、梅ヶ枝餅焼き体験 学問の神様として有名な菅原道真が祀られている太宰府天満宮を参拝しました。また、太宰府で有名な梅ヶ枝餅を作る体験もしました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p style="text-align: center;">太宰府天満宮にて 梅ヶ枝餅焼き体験 上手に作れました</p> <p>◎夜：歓迎会 歓迎会には、福岡県海外移住家族会の武藤英治会長をはじめ、家族会員の皆さんもいらっしゃいました。また、参加者は母国の文化を紹介する出し物を発表しました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p style="text-align: center;">武藤会長 母国の文化についての発表 出席者の皆さんと</p>

第3日目

12日(火)

◎終日：那珂小学校との交流

那珂小学校で、書道や日本の遊び、掃除や給食を小学校の生徒と一緒に体験させていただきました。



清掃時間



給食



書道

◎夕方：竹下太鼓との交流

竹下太鼓グループのメンバーに教えてもらいながら、和太鼓を体験しました。



一生懸命、練習をしました



竹下太鼓の皆さんと

第4日目

13日(水)

◎午前：知事公舎見学

知事公舎の中に入り、舎内を見学しました。



知事公舎



知事公舎の庭園で



昼食はお寿司を食べました

◎午後：福岡市内見学

福岡市民防災センター、川端商店街などを訪れ、博多祇園山笠も見学しました。



福岡市民防災センターで、
消火訓練を体験しました



博多祇園山笠の山車の前で



集団山見せを見学

<p>第5日目</p>	<p>14日(木)</p>	<p>◎終日：北九州市内見学</p> <p>安川電機のロボット工場を見学しました。午後からは小倉城を見学し、夜は帆柱ケーブルで皿倉山に上り、北九州の夜景を眺めました。</p>    <p>太鼓ロボット 小倉城 皿倉山からの夜景</p>
<p>第6日目</p>	<p>15日(金)</p>	<p>◎終日：大島小学校との交流</p> <p>大島小学校の皆さんと日本のゲームなどを通して交流をした後、大島の伝統行事である大島こども山笠に参加させていただきました。</p>    <p>大島小学校の皆さんと 大島山笠 お別れのテープ</p>
<p>第7日目</p>	<p>16日(土)</p>	<p>◎午前：八女伝統工芸館</p> <p>様々な草花を使って、それぞれがオリジナルの手すき和紙のうちわを作りました。また、八女出身の馬場美雅さんが工芸館にて、民謡と三味線を披露してくれました。みんなで合いの手を入れたり、大いに盛り上がりました。</p>    <p>うちわ作り 馬場さん</p> <p>◎夕方：ホストファミリーとの対面式</p>   <p>親戚との出逢いに胸がいっぱい</p>

第8日目	17日(日)	◎終日：ホストファミリーとの交流
第9日目	18日 (月・祝)	◎終日：ホストファミリーとの交流
第10日目	19日(火)	◎午後：送別会 ホストファミリーの皆さんと参加者がそろい送別会を行いました。
		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>参加者代表挨拶</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>送別会にて集合写真</p> </div> </div>
		◎午後：小川洋福岡県知事表敬訪問・原口剣生福岡県議会議長表敬訪問
		<div style="display: grid; grid-template-columns: 1fr 1fr; gap: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>県知事と記念撮影</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>それぞれのお国からのお土産を手渡しました</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>原口議長、渡辺副議長と記念撮影</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>議長にもお土産を喜んでいただきました</p> </div> </div>
第11日目	20日(水)	◎帰国 11日間のプログラムを終えて、全員無事に帰国しました。

Evaluation

事業の総評

この事業は、参加した子どもたちが、①同年代の子どもたちと交流する ②福岡の魅力に触れる ③ルーツを探る ④日本文化を体験することで、福岡に対する興味・理解を深め、将来は県人会活動を推進するリーダーに育ってもらうことを目的としている。

今年度の参加者数は、7カ国8県人会25名で、これまでに参加のなかったパラグアイ県人会からも参加があった。今回参加した引率者たちは、各県人会において活発に活動している会員だったこともあり、各県人会の活動について情報交換を行い、それぞれの成功事例や課題を確認し、意見交換ができたことは、今後の県人会活動において大いに参考になったようである。

事業後のアンケートによると、今年初めて実施した太宰府天満宮での梅ヶ枝餅作り体験や、市民防災センターでの防災体験、同年代の子どもたちと一緒に過ごすことができた小学校交流などの人気が高かった。

特に小学校での交流は、学校側のご厚意により、様々なプログラムを実施していただいたが、今回初めて、県人会の子どもたちも歌や踊り等の自国の文化を福岡の小学生に対し紹介したことで、双方の子どもたちにとって、異文化理解の良い機会となった。また、給食や掃除など日本の学校特有の集団生活を体験したことで、自国との習慣の違いを新鮮に感じるとともに、日本の規律の素晴らしさに感動した子どもも多く、日本文化の一面を知る上で、参加者にとっては貴重な経験になったと思われる。

3泊4日のホームステイでは、今回ほとんどの参加者が親戚宅で過ごし、自分たちの祖先について学び、自分のルーツが福岡県にあることを再認識できたようだ。

本プログラムは、各県人会から福岡に1年間留学をしている福岡県移住者子弟留学生にとっても、日本の文化、習慣を知る上で有意義なものとなっており、また、子どもたちのお兄さん、お姉さんとして、身の回りの世話や言葉のサポートをすることで、子どもたちの大きな支えとなっていた。留学生たちと触れ合うことで、日本語をもっと勉強して、将来留学生として福岡県に戻ってきたいという夢を持った子どもたちもたくさんいた。

帰国後、各県人会からは参加した子どもたちが、家庭で日本語を話し始めたり、太鼓等の日本文化について、関心を高めているという報告を多く受けている。この事業成果が一過性のものにならないよう県人会や福岡県海外移住家族会等と連携しながら、参加者が次世代の県人会の担い手として育つようフォローアップしていくことが重要である。

Comments

参加者等の感想

子どもたちからの感想

- 多くの新しい友達と一緒に過ごせて楽しかった。
- ホームステイでは親戚に会うことができ、日本文化にも触れることができた。
- これから一生懸命に勉強して、今回福岡で私たちを助けてくださった留学生の皆さんのように、福岡県移住者子弟留学生として福岡に戻りたい。
- 様々な国からの参加者たちとも友だちになれた。そして、日本をもっと知りたいので、「いつか日本に戻るために日本語の勉強を頑張り、最善をつくそう！」と思うほど、日本のことが大好きになった。
- 皆との共同生活や初めての日本生活で、規律と規則正しさを学んだ。そしてこの体験はこれからの自分の成長にとっても役に立つと思う。
- 祖父の故郷を自分の目で見ることができ嬉しく思った。
- いつかまた日本に行って、次はもっと日本語でコミュニケーションができるようになりたい。

保護者からの感想（帰国した子どもの様子から）

- 自分のルーツを理解し、それに誇りを抱くようになった。
- 以前よりも、日本語で挨拶をしたり、祖父母と日本語で話すようになった。
- 息子にとって一生忘れることのできない経験や思い出となったし、親としても良い思い出になった。
- 祖国である日本という国を知ってもらえたので、親としてとても嬉しく思う。
- このプログラムに参加して、娘は物を大切にできるようになり自己責任が増し、さらに自立心がついた。
- スペイン語、ポルトガル語、英語、日本語といった多言語の中で過ごせたことは、子どもにとって、とても素晴らしい経験になった。
- またいつか日本に住みたいと話していて、将来その夢が叶えば嬉しい。
- 多くの経験や他の国からの参加者と友達になれたことを、とても喜んでいて娘を誇りに思う。

引率者からの感想

- この滞在で福岡県人の先祖に対する敬意や感謝の心を更に学ぶことができた。
- 福岡県でいろいろな国から集まった子どもたちや留学生と出会い、彼らとは、「福岡県からの移住者の子孫」という共通点があることを再認識できた。
- いろいろな体験や福岡県の素晴らしさを知ることができたこと、他国からの参加者と短期間だったが仲良く友達になれたことが私にとって人生最大の思い出となった。
- 他の海外福岡県人会の引率者と、各県人会の問題について意見交換することができた。実りある会議で得られた成果を県人会に伝えたい。
- 来る2013年の県人会世界大会にも会員たちと一緒に参加して、今回知り合った人たちと友情を深めたいと願っている。
- 福岡の温かい県民性に改めて感動したことで、福岡への思いや福岡県民であるという誇りをこれまでにないくらい強く持つことができた。

Report

参加者レポート【子弟】

A
グループ



畑中 真恵 カロリーナ

HATANAKA MAE CAROLINA



【ブラジル福岡県人会】

「プログラムで得たこと・学んだこと」

日本はブラジルとは全く違う国でした。道はとてもきれいで、人は礼儀正しく、お店はきちんと整理されていました。親戚の皆さんはとても素敵な方々で、私の面倒を良く見てくださいました。もっと一緒に過ごしたかったです。買い物、小学校での時間、団扇作り、お祭り参加など、どれもとても楽しかったので、もっといろいろな所へ行きたかったという気持ちになりました。私の夢は日本に行くことでした。そして、その夢が叶った今、次は日本への留学や日本での生活がしたいという気持ちでいっぱいです。

～親御さんからのメッセージ～

娘は祖父母と生活し始めてから、日本文化というものに強く影響を受けるようになりました。そしてある日、日本へ行きたいという夢を持つようになったのです。今回その夢が叶い、娘はとても幸せに思っています。この日本訪問のチャンスをくださった県人会の皆様にも、とても感謝しています。帰国してから、日本でのことを話す娘はいつも楽しそうです。日本語の勉強をしたことがなくても、日々、祖母の存在が大きく影響しているのでしょう。世界は広く、そして自分のルーツはその地球の反対側にあるのだと実感したようです。

娘が自分の人生について常によく考え、いつの日か日本で勉強できるようにと、私も願っております。

A グループ



松本 美穂 エミリー

MATSUMOTO MIHO EMILY



【ブラジル福岡県人会】

「プログラムで得たこと・学んだこと」

日本へのこの旅は素晴らしい経験でした！私は多くの国の人々、文化、場所に出会えました。そして日本は素晴らしい先進国だとわかりました。楽しい経験もいっぱいできました。太鼓の演奏、大島の祭りへの参加、防災センターや買い物、全てが素晴らしい経験です。また、私たちは福岡に滞在中、新しい文化、教育、規律などを学ぶことができました。小学校交流では、皆さんがすごく歓迎してくれて、素晴らしい出し物を披露してくださったことに感動しました。日本の小学校での生活はブラジルと全く異なっていました。できれば、もっと日本で過ごし、いろいろな所へ行ききたかったです。

これから私は一生懸命に勉強して、今回福岡で私たちを助けてくださった留学生の皆さんのように、留学生として福岡に戻りたいと思います。私はこの機会に恵まれたことを本当に感謝し、この旅を決して忘れません。

～親御さんからのメッセージ～

娘は日本文化、きれいな町並み、教育、国の美しさに感銘を受けていました。今、娘は日本人であることを誇りに思っています。またいつか日本でもっと多くの時間を過ごし、いろいろな場所を訪問したいと言っています。次は、一生懸命勉強して留学生として福岡へ行くという目標を作り、ブラジルへ帰って来ました。

A グループ



南 せいじ アルトゥール

MINAMI SEIJI ARTHUR



【ブラジル福岡県人会】

「プログラムで得たこと・学んだこと」

このプログラムは、様々な新しい経験ができるということだけではなく、曾祖父母の故郷を知るという私の夢を叶えてくれるものでした。初めての飛行機、そしてブラジルだけでなく、様々な国からの参加者たちとも友だちになれました。そして、日本をもっともっと知るために、日本語の勉強を頑張って、「またいつか日本に行くために頑張ろう！」と思えるようになったほど、日本のことが大好きになりました。

～親御さんからのメッセージ～

日本の文化や食事、日本語、そして最近、なでしこジャパンがワールドカップで優勝したのも手伝って、日本で起きる全てのことに興味をもつようになりました。他の国々から来た参加者たちとの出会いもまた、いろいろな国に自分たちと同じような日系人がいること、言語を超えたコミュニケーションを体験するのにとても良かったと思います。息子は、小学校での交流では、集団で1つのことに取り組む大切さを学び、ホームステイでは、優しさ、そして社会性を持つことを学び、「また福岡に戻る」という強い気持ちで帰国しました。このプログラムの関係者の皆様に深くお礼申し上げます。

B グループ



行徳 アレックス

GYOTOKU ALEX



【ブラジル福岡県人会】

「プログラムで得たこと・学んだこと」

僕は、この旅で多くのことを学びました。この子弟招へい事業の期間は、僕のことを家族に誇りに思ってもらえるよう、僕は責任を持った行動をとらなければなりませんでした。一緒に過ごした新しい仲間や、日本でできた友人との時間は、友情の価値を感じさせてくれて、目上の人やお年寄りには尊敬の気持ちを持ちました。日本の親戚の皆さんに対しては、今、「恋しい」という気持ちでいっぱいです。ずっと皆さんのことを忘れません。

そして、僕の日本へ行きたいという夢を叶えてくださった全ての皆さんに感謝しています。

～親御さんからのメッセージ～

このプログラムは、息子の成長を大きく助けてくださいました。家族と離れて過ごした日々のお陰で、息子は以前よりも責任感と独立心を持つようになりました。自分のルーツを理解し、それに誇りを抱くようになりました。親戚のことを恋しく思い、交流した小学生の皆さんにもまた会いたいと思っているようで、子弟招へい事業で新しく学んだこと、そして今感じている気持ちが息子をより良い一人の人間へと成長させてくれたものと思っています。

B グループ



小西 エリキ 雄也

KONISHI ERIC YUUYA



【ブラジル福岡県人会】

「プログラムで得たこと・学んだこと」

このプログラムでは、ペルーやボリビアなど、他の国から来た参加者たちともたくさん遊んで、楽しい時間を過ごせました。多くの経験をさせていただきましたが、ホームステイの親戚と過ごした時間は、日本文化や日本の生物などについて知ることができました。日本で1番気に入ったことは、安川電機ロボット工場見学でした。ロボットが太鼓を叩いたり、ロボットがロボットを作ったり、とても興味深いロボットを見ることができ、とても良かったです。

このプログラムがこれからもずっと続き、他の子どもたちにも僕が経験したような経験をしてもらえると良いなと思います。本当にありがとうございました。

～親御さんからのメッセージ～

息子を海外福岡県人会子弟招へい事業に参加させていただき、ありがとうございました。息子はすごく喜んで帰ってきました。福岡県で見たこと、体験したこと、言葉が通じなくても他の国の子どもたちと遊んだこと、何でも珍しいことばかりで楽しかったようです。日本へ行ったお陰で自分の日本語にも自信がついたようです。前より日本語であいさつをしたり、祖父母ともしっかり日本語で話したりするようになりました。本当にありがとうございました。

B

グループ



谷口 ノリオ パウロ

TANIGUCHI NORIO PAULO



【ブラジル福岡県人会】

「プログラムで得たこと・学んだこと」

この事業で学んだことはたくさんあります。初めての日本、遠くて近く感じさせられたみんなとの素敵な触れ合い、そして二度と経験できない数々の貴重な体験。本当に良い経験でした。那珂小学校での組体操や和太鼓交流は、リズムと息がピッタリで感動したし、大島では山笠祭りに参加できました。安川電機ロボット工場見学では、ロボットが奏でる和太鼓に驚き、また、八女伝統工芸館で自分で作ったうちわは、母への良いお土産となりました。

そして、ホームステイでお世話になった小西家の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。美味しい家庭料理をいただき、特に朝食の魚とご飯が今でも夢に出てきそうなくらい美味しかったです。新幹線にも乗せてもらい、小西さんには本当に良くしてもらいました。最後は寂しい気持ちになりましたが、充実した気持ちで帰路ブラジルへと気持ちを新たに旅に出ました。福岡のみなさん、本当にありがとうございました。

～親御さんからのメッセージ～

息子が帰国後、日本はどうだったか?と尋ねると、ずっと日本にいたかったという答えで、私も頼もしい気持ちになりました。帰国後は、積極的に人と話して社交的な気持ちも出てきて、今後の成長にプラスになる経験をさせていただき、ありがたく思いました。一人旅は本人にとって初めての経験だったので不安な面もあったのですが、一人で何でもできたようで子どもの力でやらせてみるということ、親の私も学びました。息子にとって一生忘れることのできない経験と思い出ですが、親としても良い思い出になりました。福岡のみなさんには言い尽くせぬ感謝の気持ちでいっぱいです。今度は是非ブラジルに遊びに来てください。

C

グループ



ロドリーゲス ミノル

RODRIGUEZ MINORU



【コロンビア福岡県人会】

「プログラムで得たこと・学んだこと」

この子弟招へいプログラムで僕はとても貴重な体験をしました。全然知らなかった祖父たちの祖国を知ることができました。ホームステイでは親戚と出会い、日本人としてのルーツも少し理解できました。そして太宰府天満宮の観光、和太鼓演奏、安川電機ロボット工場見学、昼食に食べたお寿司、小学校交流で出会った日本の友だちに教えてもらった剣玉など、どれもがとても楽しい思い出になりました。特に県知事、県議長への表敬訪問では、特別な気持ちになれました。他の国からの参加者とは、言葉が違ってとても楽しい時間を一緒に過ごすことができました。

皆さんとの共同生活や初めての日本での生活で、僕は規律と規則正しさを学びました。そしてこの体験はこれからの僕の成長にとっても役に立つと思います。

～親御さんからのメッセージ～

息子はこのプログラムに参加したことで、日本語にとっても興味を持ち始めました。そして何より、福岡からコロンビアに渡った祖父たちや移住者たちが、今日まで自国の伝統や文化を守り、それを私たちに伝え残そうとしてきたことに、少しは理解と興味を示し、彼らの努力に感謝をするようになりました。

このように世界各国の福岡県人会の維持と発展を支えて下さる福岡県に、心より感謝いたします。

C グループ



竹内 隆義

TAKEUCHI TAKAYOSHI



【パラグアイ福岡県人会】

「プログラムで得たこと・学んだこと」

日本には、物がたくさん溢れていて、すごく便利な国だと感じました。僕の欲しいものがたくさんありました。それに比べて、パラグアイは何もない国だと思いました。

今回このプログラムに参加したことで、日本という国を知ることができたことを、とても嬉しく思います。大きくなったら、もう一度日本へ行きたいです。10日間はあっという間に過ぎたけれど、日本という国が好きになりました。

～親御さんからのメッセージ～

息子は、参加する前と後で、日本に対する気持ちが変わったのだと感じました。帰国後は、日本についてとても興味を持つようになりました。また、福岡県での体験がとっても良かったのか、もう一度大きくなったら日本に行きたいと言っております。10日間の短期間でしたが、祖国である日本という国を知ってもらえたので、親としてはとても嬉しく思います。

是非、このプログラムをこれからも続けてほしいです。どうもありがとうございました。

C グループ



渕脇 隼

FUCHIWAKI JUN



【パラグアイ福岡県人会】

「プログラムで得たこと・学んだこと」

日本では初めて経験することがたくさんありました。日本の夏は暑く、僕の国よりもっと暑い気がしました。日本の小学校へ行ったとき、お習字や太鼓を経験できて、そして日本のお友だちが来たことも嬉しかったです。県内を観光して、僕のおじいちゃんやおばあちゃんの生まれ育った所を見ることができて、何よりも良い思い出を作ることができました。大島でのお祭りもとても楽しかったです。ホームステイでは、おばさんが熊本城や水族館に連れて行ってくれたことも、とても思い出に残りました。そして、このプログラムを通して、他の国の人たちと友だちになれました。これからも日本語の勉強を頑張って、また日本に行く機会があれば嬉しいです。最後に、県庁の皆様、いろいろお世話になった人たちにお礼を言いたいです。是非、パラグアイにも遊びに来てください。

～親御さんからのメッセージ～

このたびは息子が大変お世話になりました。祖父母の故郷を見られたことが嬉しかったようです。他の国の日系人との交流を通して、自分との日本語レベルなどを比べたりもしていました。帰国後は、更に日本語に興味を持っています。日本文化の深さ、日本とパラグアイの学校や環境の違いなど、多くのことに驚いており、息子がまだ10歳ということでこのプログラムへの参加も初めは少し不安でしたが、成長してくれたと思います。

県庁や国際交流センターの皆様本当にありがとうございます。これからも宜しく願いいたします。

D グループ



フェルナンデス カミラ

FERNANDEZ CAMILA



【ペルー福岡クラブ】

「プログラムで得たこと・学んだこと」

私は、このプログラムに参加できてとても良かったです。他の国の友達が出て、日本のことをたくさん学ぶことができました。また、日本の生活習慣や食習慣に直接触れることができました。その中でも自分で作った「梅ヶ枝餅」はとても美味しかったです。日本の夏はとても暑く、プログラムの中で作った手すき和紙のうちわが活躍しました。ちょうど福岡は祭りの時期で、私たちは伝統の山笠祭りにも参加し、お神輿をひくこともできました。水もかけられ、とても盛り上がりました。那珂小学校での交流では、沢山の子どもたちと遊んだり、習字の授業では初めて自分の名前を日本語で書いたりしました。とても楽しい交流ができました。防災センターでは地震や火事、暴風等の体験をしました。とても楽しい体験で、災害時にどの様に自分の身を守ればいいのか学ぶことができました。

このプログラムはものすごくためになる経験でした。ありがとうございました。

～親御さんからのメッセージ～

このプログラムに参加して、娘のカミラは物を大事にするようになり自己責任が増し、さらに自立心がつきました。こんな素晴らしい機会を娘に与えて下さったことを、とても感謝しています。

D グループ



ローサス めぐみ

ROSAS MEGUMI



【メキシコ福岡県人会】

「プログラムで得たこと・学んだこと」

プログラム参加者との出会いで、同じ言葉を話していても、国が違えば様々なことが違うということを知りました。違う言語を話していても、同じ時間を過ごすことで私たちは友達になれました。ホームステイでは、日本人の多くはお庭で家庭菜園を楽しみ、自分の身体を気遣うからこそ長生きできていることに気づきました。そして、言葉の面では「ただいま」「行ってきます」という挨拶は、信頼関係を作り「早く家に帰って一緒に過ごしたい」と思える素敵な言葉だと思いました。また、各家庭ではそれぞれが自分のお箸を持っていて、それを大切に使い、来客にはとっておきのお箸を準備し、特別な気持ちにさせてくれます。夕方、家族が揃うと皆一緒に夕食の支度をする時間が好きでした。まるで自分が家族の一員になったようで、気持ち良かったです。このプログラムで様々な体験をして、どこへ行ってもどんな時も積極的に参加し協力することが自分を成長させるのだと実感しました。メキシコの引率者の美千子さんや他の引率者の皆さんがずっと離れずに、私たちの面倒をみてくれたので、安心して過ごすことができました。

～親御さんからのメッセージ～

娘はとても満足し、前向きな姿勢で帰ってきました。スペイン語、ポルトガル語、英語、日本語といった多言語の中で過ごせたことは、彼女にとって、とても素晴らしい経験になりました。そして、その体験が彼女に自信を与え、これから、一人の人間として更に成長させてくれることでしょう。

D グループ



サンタナ なつみ セシリア
SANTANA NATSUMI CECILIA



【メキシコ福岡県人会】

「プログラムで得たこと・学んだこと」

初めての日本はとても楽しかったです。お店や商店街はとてもきれいで、道路の幅は広く、また、車が右ハンドルであったことが興味深かったです。プログラム中、太宰府天満宮見学、夜のケーブルカー、防災センター、伝統的な和紙のうちわ作りなど、たくさん楽しい体験ができました。また、小学校交流では、とても暑い中汗だくになって遊びました。ホームステイは引率者の親戚宅でお世話になり、叔父さんや姪に会うことができました。慣れない和式トイレには戸惑いましたが、家に入る時やレストランで食事をする時に靴を脱ぐ習慣や、食事時の「いただきます」「御馳走様でした」という挨拶など、メキシコとは全く違う日本文化は、良い勉強になりました。このプログラムで私は、いろいろな国の参加者たちと友達になり、とても楽しく交流を深めることができました。私に曾祖父の故郷を訪ねる機会を与えていただき、心より感謝します。そして、私たちのことを最後までお世話してくださった引率者の飯田美千子さん、本当にありがとうございました。

～親御さんからのメッセージ～

先祖の故郷を娘が訪れ、その文化に触れられたことは親としてとても誇らしく嬉しいことです。娘はこのプログラムに参加する前はちょうど反抗期でしたが、参加後の表情は明るく穏やかになりました。福岡での経験がいかに彼女に影響を与えたのかが分かります。娘にとって初めて家族と離れて過ごす時間でしたが、知らない土地で経験した全てのことが彼女の宝だと言っています。また、将来福岡に戻って勉強をしたいそうで、いつか福岡に行くことを目標にこれから頑張ることでしょう。娘と離れた期間は、私たち親にとっても娘への愛情を深める時間となりました。このような素晴らしい機会を与えてくださった各関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。

E グループ



宮園 竜虎 フィデル
MIYAZONO RYUUKO FIDEL



【在ボリビア福岡県人会】

「プログラムで得たこと・学んだこと」

僕は初めて日本に行くのが楽しみで楽しみで、待ち遠しかったです。日本で初めて皆と一緒にいった場所は太宰府天満宮でした。天満宮はすごい所で、いっぱいお土産を買い、自分で梅ヶ枝餅を作る体験もしました。その後の歓迎会では皆さんにボリビアの国歌を披露して、少し間違えてしまいました。7月15日に参加した大島山笠祭りでは、ドラえもんのお神輿を担いで水をかけられたことが一番面白かったです。グローバルアリーナでは、皆と一緒にサッカーもしました。日本で一番美味しかったのは、とんこつラーメンとフライドポテトと豚肉でした。一番良かったことは、皆と一緒に楽しく過ごしたことです。

またいつか日本へ行ってみたいです。そのためには、日本語をもっと勉強しなければなりません。

～親御さんからのメッセージ～

息子は、このプログラムに参加することで、初めて日本へ行くことができました。“日本は忙しい”“日本は楽しい”と素直な感想が返ってきました。またいつか日本に住みたいと話すので驚きましたが、将来その夢が叶えば嬉しいです。日本語は不十分ですが、参加者の中で一番日本語が上手だとほめられたそうで、とても喜んでます。これがこの子の日本語学習への動機付けになれば良いと思います。

息子を、大変意義のあるプログラムに参加する機会を与えてくださいました関係者の方々に、深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

E

グループ



徳永 アルマンド 良一

TOKUNAGA ARMANDO RYOICHI



【在ポリビア福岡県人会】

「プログラムで得たこと・学んだこと」

大島小学校と那珂小学校で日本の友だちを作ることができました。みんなとドッチボールをして遊び、楽しかったです。大島小学校の子どもたちとは大島山笠のお神輿と一緒に担ぎ、水をかけられたことも面白かったです。手すき和紙のうちわ作りも体験できて、良い思い出ができました。おじいちゃんのふるさとを自分の目で見ることで嬉しく思いました。みなさん、いろいろとお世話になりました。

～親御さんからのメッセージ～

福岡県国際交流センターの皆様には、毎年のように息子たちが祖父の故郷を知る機会を与えてくださり、感謝しております。プログラムに参加し、様々な体験をすることは、子どもたちにとって一生の宝になると思います。たった10日間でしたが、親から離れ、いろいろな面で目には見えない思いやりが兄弟に出てきました。お互いに参加したことを話したりして喜びを感じています。

皆様の今後の発展をお祈りし、県庁の方々、親戚でホームステイをさせていただいた有二兄さん、そしてポリビアの県人会の方々にも、感謝の気持ちでいっぱいです。どうもありがとうございました。

F

グループ



エマーソン ケンジ

EMERSON KENJI



【ハワイ島福岡県人会】

「プログラムで得たこと・学んだこと」

このプログラム期間中、多くのことを学びました。2つの小学校訪問は、とても心に残りました。特に、那珂小学校では日本の小学生と一緒に掃除をする時間があり、自分たちが使う学校や教室という環境に責任を持つという考えにとっても共感できました。ホームステイでは、ご先祖様の仏壇を見ました。親戚が、曾々祖父や祖父母の写真を見せてくれ、僕のルーツと、福岡の繋がりについて話してくれました。親戚との時間は本当に有意義な時間となりました。福岡で訪問した全ての場所が心に残り、食事とても美味しく、宿泊先のお風呂もとても気持ち良かったです。このようなプログラムに参加する機会を与えていただき、本当にありがとうございます。楽しかった思い出は決して忘れることはありません。いつかまた日本へ行って、次はもっと日本語でコミュニケーションができるようになりたいです。

～親御さんからのメッセージ～

このプログラムは息子にとって驚くべき数々の経験をする事ができた、かけがえのない教育の場でした。家族と離れて一人で海外に行き、親戚宅に滞在し、海外からの日系人の子どもたちと出会い、共に生活することができました。息子は帰国後、これまでよりも更に自立心が向上し、自分に対する自信も得て、見えるものだけではなく、様々な人々や文化に対して興味を示すようになりました。息子が今回福岡を訪問したことで、私自身も日本語をもっと勉強して自分の家系についてもっと知りたいと思うようになりました。これからも県人会の活動に参加し、日本文化を家族の中で持続させていきたいと思っています。息子にこの価値あるプログラムに参加する機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。



馬場 みか ジャスミン

BABA MIKA JASMINE



【南加福岡県人会】

「プログラムで得たこと・学んだこと」

このプログラムは福岡とその伝統文化を学べる大変素晴らしい機会でした。参加前は両親の同行なしで日本へ行くことが心配でしたが、日本滞在中はたくさんお友達を作ることができて、自分の家のことを忘れていました。このプログラムを通して、私自身も、独立心が芽生えたと感じます。日本の伝統ゲーム、山笠への参加、うちわや梅ヶ枝餅の作り方など、福岡についてたくさん学ぶことができました。そしてこのプログラム期間中、飛行機、船、電車、バスなど様々な乗り物に乗ることができました。一番のお気に入り、は、たくさんのお友だちを作ることができた那珂小学校です。県知事や県議会議長にお会いできたことも大変光栄で、私はこの経験を忘れることはないでしょう。私は大変素晴らしい経験をさせてくれたこのプログラムが大好きです。

～親御さんからのメッセージ～

このプログラムについて知った時、私は娘にとって、日本文化や福岡県の伝統を学び、彼女の祖父母のルーツがどこにあるかを知る良い機会だと思いました。プログラムについて娘に話をした時、彼女には期待と不安がありました。南加福岡県人会の会長及び引率者と打ち合わせを繰り返していくうちに不安もなくなり、日本へ行く期待が大きくなったようです。日本滞在中は、娘は責任をもって行動することができ、掃除などの苦手なことにも取り組みました。多くの経験や他の国からの参加者とお友達になれたことを、とても喜んでいる娘を誇りに思います。この子弟招へい事業、福岡県による資金援助、更に福岡県人会に感謝を致します。

Report

参加者レポート【引率者】

A
グループ



南 美陽 ソフィア

MINAMI MIHARU SOPHIA



【ブラジル福岡県人会】

子弟招へい事業での体験は、私の先祖の生活や文化を知る貴重な経験となりました。その中でも特に印象的だったのは、那珂小学校を訪問したことでした。日本の小学校では、生徒たちが自分たちで学校の掃除をし、幼少の頃から掃除や整理整頓、そして物を大切にすることを学びます。ブラジルの小学生は自分たちでは掃除はせず、清掃員が全ての仕事をします。そのため、掃除の苦勞も知らず、平気でゴミを道路に捨てたり汚したりして、公共心が足りないと思います。そして、次に印象に残ったのは、防災センターでの体験です。日本は地震や台風の被害が多くあります。そのための防災として、いろいろなシミュレーションがしっかりできるようになっており、大変驚きました。ブラジルは自然災害があまりなく、体験したこともないので、これを見て東日本大震災の津波の様子を少しでも感じることができました。

この事業でとても感謝していることは、ホストファミリーの親戚の方々がとても温かく迎えてくださったことです。私の曾祖父がブラジルに移住した際の様子も話してくださり、とても身近に感じることができました。最後にこの「子弟招へい事業」で私たちに福岡訪問という貴重な体験をさせてくださいました、福岡県知事、並びに福岡県の方々にお礼と感謝をいたします。ありがとうございました。

B グループ



辻沢 成東

TSUJISAWA NARUTOU



【ブラジル福岡県人会】

今回、福岡県でいろいろな国から集まった子どもたちや留学生と出会い、彼らとは、「福岡県からの移住者の子孫」という共通点があるのだと思いました。

このプログラムを通して実際に福岡県に行ってみると、自分が期待していたよりもはるかに楽しむことができ、勉強になることばかりでした。日本の山や川などの自然の美しさにはとても驚き、ブラジルの多くの街に比べて、福岡県はあらゆることがきちんと整備されていて、気持ちよく過ごすことができました。小学校を訪問した際には、日本の子どもたちは礼儀、行儀などをきちんと躰けられていて、そのような教育が日本人の基礎になっていることを感じました。また、ホームステイでは、家族の一員としてホストファミリーに温かく迎えてもらったことがとても印象的でしたし、日本人の日常生活を味わうこともできました。私は、今回子弟招へい事業に参加できたことによって、更に日本に興味を持つようになりました。福岡で見たもの、出会った人、全てを忘れないでしょう。福岡県へまた戻ろうという気持ちを持って、ブラジルに帰ることができました。

C グループ



坂本 アルバ

SAKAMOTO ALBA



【コロンビア福岡県人会】

10日という短期間でしたが、このプログラムに参加することができ、感謝しております。期間中、福岡県の文化・経済・科学技術と日本の生活習慣をこの目と身体で感じることができました。またこのプログラムを実行するにあたって、たくさんの方々の援助で、順序正しく時間を守って行動することも体験させていただきました。

日本の小学校交流では生徒たちが何事も規則正しく活発に進んで活動をして、教室の掃除などもやっていたことには感動しました。各国の方々と交流をして、各県人会のいろいろな問題について話し合う中で、どの県人会でもこれからは、日本語のできる若い後継者を育成していかなければならないと思いました。ホームステイでは35年ぶりに叔母に会うことができ、彼女は84歳とは思えないくらい元気でしっかりしておられるのに驚きました。このような機会をいただき、ありがとうございました。

最後に、このプログラムをいつまでも継続していただき、一人でも多くの人に福岡県を知っていただきたいと思います。子どもたちは、このプログラムに参加してとても日本に興味を持ち、しっかり日本語を勉強して、また行きたいと繰り返し言っています。ご招待いただきました福岡県知事様や国際交流センターの皆様、並びにこのプログラムの運営をサポートいただきました方々に、厚くお礼申し上げます。どうもありがとうございました。

C グループ



鬼塚 理奈

ONITSUKA RINA



【パラグアイ福岡人会】

今回初めてこのプログラムに参加できたことは、私にとってとても良い体験となりました。初めて見た日本は、私にはまるで別世界のように見えました。見るもの、食べる物、全てがとても心に残りました。福岡県に行き、祖父母や母が住んでいた所を見ることができて、本当に嬉しい限りでした。太宰府天満宮、小学校交流、防災センターでの台風や火事、地震などの体験、八女でのうちわ作り、どれもこれもとても良い勉強になり、一生忘れられない思い出となりました。小学校交流の中で、最も珍しかったのが給食の時間でした。皆で同じ物を食べ、当番で準備や後片付けなどをして、助け合う心を育てるということもとても良い勉強になりました。また、防災センターでの地震体験では、初めて地震の揺れを体験して、すごく恐ろしかったことを今も忘れることができません。こんなに恐ろしいことが実際に起きた東日本大震災を体験された方たちのことを思うと言葉がありません。いろいろな体験や福岡県の素晴らしさを知ることができた事、他国からの参加者と短期間でしたが仲良く友達になれたことが私にとって人生最大の思い出となりました。

福岡県人会の皆様へ優しい心遣いでお世話をしていただき、本当に感謝しています。このプログラムに参加させてくださり、本当にありがとうございました。

D グループ



ウシジマ ロシオ

USHIJIMA ROCIO



【ペルー福岡クラブ】

この事業に参加できて、短いプログラムでしたが素晴らしい体験ができました。私にとって福岡は特別な場所です。というのは祖母の故郷であり、初めて日本に行った際に訪れたのが福岡だったからです。当時、私は日本語を学んでいましたが、その時は全く日本語を話せませんでした。日本語はとても難しかったので日本には二度と行かないだろうと思っていましたが、この経験がきっかけとなり、ペルーへの帰国後、日本や日本語に強い興味を持ち始めて一生懸命日本語を勉強した結果、話せるようになりました。

今回のこの10日間で学んだことがいくつかあります。1つは、日本文化、福岡の伝統を学べたことです。日本は先進国ですが、大島山笠や博多山笠祭りなど、伝統文化がまだ忠実に残っていることにはとても感動しました。今回良かったプログラムは大島山笠に参加したことで、他の祭りと違って水をかけられてとても面白かったです。もう1つは、他の海外福岡県人会の引率者と知り合い、仲良くなったことです。各県人会の問題について意見交換もできました。少ない人数でしたが、実りある会議で得られた成果を県人会に伝えたいと思います。

最後に、福岡県や国際交流センターの皆さまに、このような素晴らしいプログラムを考えてくださったこと、最初から最後までお世話していただいたことに、心から感謝いたします。

D グループ



飯田 美千子

IIDA MICHIKO



【メキシコ福岡県人会】

この事業を通して、他の国の日系人の皆さんとの良い出逢いがあり、交流が始まりました。様々なプログラムへの参加だけではなく、同じルーツ、そして県人会がずっと続くよう同じように願っている他の国々の日系人たちとの繋がりができて、自分の県会をもっと大切にしようという気持ちが強くなりました。日本文化と習慣を大切にする努力をしてきた大勢の皆さんのお蔭で、この関係が長く続いていると思います。この事業はとてもよく計画されていて、見学、滞在時間、交通事情、食事、買い物の時間など、緻密に考えられていました。オリエンテーションでは福岡について色々学ぶことができ、とても良かったのですが、その中で、それぞれの国の文化を紹介する時間があれば、多くの方々の前で発表する際の良い練習になったのではないかと思います。メキシコでは、このような事業をしている県人会は殆んどなく、多くの県人会は日本からの援助や奨学金制度が無くなっているため、他の県人会にとってはとても羨ましい事業だと思います。これからも、このような素晴らしい事業を続けていただきたいです。子弟招へい事業に参加させて頂き、福岡県と国際交流センターの皆様へ心から感謝いたします。心に残る素晴らしい経験になりました。我々もこれからもっと頑張ります。

E グループ



川波 一幸

KAWANAMI KAZUYUKI



【在ボリビア福岡県人会】

僕は今回初めて日本に行って、いろいろな事を経験しました。太宰府天満宮、安川電機ロボット工場、那珂小学校、大島小学校、皿倉山などに行きました。那珂小学校では、子どもたちとドッチボールをして遊んだり、いろいろな話をしたり、一緒に書道の授業も受けました。お昼には給食を一緒に食べて、楽しいひと時を過ごしました。他にも、日本の遊びである和ごまやだるま落とし、剣玉などもしました。大島の山笠祭りでは、子どもたちと一緒に山笠を引ながら水をかけられたことが、一番印象に残りました。まるで、ボリビアのカーニバルの様で、とても楽しかったです。その他にも防災センターでは、地震、台風や火事を再現した防災訓練を体験しました。初めてだったので、皆驚きながらも楽しんでいました。皿倉山ではケーブルカーで山頂まで上がり、北九州の夜景を見ることができました。

今回、引率者として日本に行くことができ、県会会の皆様には心から感謝しています。本当にありがとうございました。

F
グループ



クック ヴァン
COOK VAUGHN



【ハワイ島福岡県人会】

私がこのプログラムに参加した理由は、ハワイ島福岡県人会の子どもたちが福岡や自分のルーツに興味を持って欲しいからということと、自分がプログラムに参加して経験したことを会員に伝えたかったからです。ハワイ島県人会がこのプログラムに参加するのは2度目となりますが、参加した子どもたちは、これまで以上に自分の福岡のルーツと日本語、そして日本文化に興味を持つようになりました。そして、このプログラムに参加した子どもたちとその家族は、更に県人会の活動に興味を示し参加するようになりました。今年もまた、参加した私たちが経験したことを会員の皆さんに報告する会を開きました。そうした機会を通じて私の経験が会員の皆さんに伝わり、福岡を経験してもらいたいと願っています。

私自身は今回のプログラムに参加して、非常に有意義な経験をし、世界中の県人会の引率者の方、また福岡県の主催者の方と親交を深めることができました。参加者の中で英語を話す人はわずかでしたが、国際交流センターと福岡県の親切的な担当者の方々は、参加者同士が日本語でコミュニケーションをするサポートをしてくださり、私たち皆があたかも福岡県民であるかのように歓迎してくださいました。主催者と引率者の皆さんがお互いに、また子どもたちに対しても日本語で話ができるように努力している姿は、子どもたちにとっては同郷であることがいかにして言葉や文化の壁を越えることができるかを示した良い例になったことと思います。最後に、私はこのプログラムに参加できる機会を得て大変感謝しています。吸収できたことは期待以上のものでした。来る2013年の県人会世界大会にも会員たちと一緒に参加して、今回知り合った人たちと友情を深めたいと願っています。

F
グループ



的野 健
MATONO KEN



【南加福岡県人会】

子弟招へい事業を通して、生まれ育った福岡にこのような形で帰ることができて、多くを得ることができました。今まで見えなかった部分が見えたこと、福岡の温かい県民性に改めて感動したことで、福岡への思い、そして福岡県民であるという誇りをこれまでにないくらい強く持つことができました。国際交流センター、県庁の皆様をはじめ、家族会の皆様、那珂小学校と大島小学校の先生と生徒達、皆我々参加者を温かく迎え入れて下さりました。思えば県人会に初めて参加した時も同じでしたが、その時は気付きもしませんでした。

今回の参加で、国よっての県人会の違いを引率者の皆さんと話せた事も、今回得た事の一つです。それぞれの県人会の違い、活動、青年の部などについて話し、まるで県人会の世界大会並みに意見交換をすることができました。また、それぞれの国によって違った県人会でありながらも、皆酒好きで祭り好きな福岡の血は全く薄れていない事は、大変嬉しく思えました。

しかし、何よりの収穫は一緒に参加したミカちゃんの成長です。出発の際には大人しかった子が、このプログラムを通して大きく成長し、自分の手を離れて自分の思いを人に伝えられるようになる様子を目の当たりにして、とても嬉しく思いました。彼女が県人会の中心となって活動する時、南加福岡県人会はちょうど150周年を迎える頃です。その時にはきっと福岡県との架け橋として立派に活動してくれると信じています。また、我々現会員も、彼女たちにしっかりとバトンを繋げる事が出来るよう、今後も充実した内容で、楽しい県人会を運営していきたいと思っています。

この子弟招へい事業は、10年後、20年後の県人会に繋ぐ大変意味のある事業だと思います。事業関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

Report

参加者レポート 【福岡県移住者子弟留学生】

A
グループ



篠崎 忠夫 ブルーノ

SHINOSAKI TADAO BRUNO



【ブラジル福岡県人会】

海外福岡県人会子弟招へい事業に初めて参加した私は、参加者と会えるのを楽しみにしていました。ブラジルから来た参加者はブラジル国旗と同じ色のTシャツを着て日本に到着しました。

小学校交流では、外国と日本の教育を比較する良い機会になりました。日本の小学校には掃除の時間があることに子どもたちは驚いていて、とても楽しめました。日本語があまり上手ではなくても、子どもたちはいつも元気いっぱい、日本でたくさん友だちを作ることができました。また、ブラジルの子どもたちは日本の学校で勉強したいとも言っていました。参加者は、多くのプログラムを通して日本文化を学び、ホームステイでは、それぞれが親戚と過ごすことができ、日本の生活を体験することができました。

このプログラムは10日間という短い期間でしたが、内容が充実しており、宿泊先もとても良いところで、楽しくそして気持ちよく過ごせました。私はたくさん写真を撮ったので、良い思い出を記憶にとどめておこうと思います。このプログラムに参加するにあたり、関係者の皆さまには大変お世話になりました。このような機会を与えていただき、本当にありがとうございました。

B グループ



田中 真理恵 シンチア

TANAKA MARIE CINTHIA



【ブラジル福岡県人会】

私は子弟招へい事業に参加して刺激的な10日間を過ごすことができ、感謝しています。今年は7カ国の海外県人会の方々がこのプログラムに参加しました。最初は子どもたちも自国同士で固まって行動をしていましたが、3日も経つと国も言葉も関係なく、皆と一緒に遊んでいました。将来、彼らが日本と母国の「文化と言語」の両方に興味を持つようになることを望んでいます。

初日はオリエンテーションが開催されてグループ分けが発表されました。私はブラジル人の3人の子どもと引率者1人がいるBグループでした。このプログラムでは、様々な場所へ行ったり、実際に日本文化を体験したりしました。その中でも特に印象的な体験が2つありました。1つ目は那珂小学校と大島小学校の小学生との交流です。2つ目は大島の山笠祭りに参加したことです。

日本文化体験では、太宰府天満宮で初めて梅ヶ枝餅を自分で作って食べたことや、手すき和紙のうちわを作ったこと、宿泊施設の大浴場に入ったことなどが、非常に楽しかったです。自由時間には、町を散策して日本の雰囲気に参加者が味わうことができ、とても良かったです。

また、私自身もこの事業期間中に日本語を良く使ったので、少しは上達したのではないかと思います。その上、良い友達を作ることができて、今でもインターネットを通じて連絡を取っています。またいつか、彼らと会える事を楽しみにしています。

E グループ



信重 真紀 アンジェラ

NOBUSHIGE MAKI ANGELA



【ペレン福岡県人会】

海外福岡県人会子弟招へい事業は、今年で4回目になります。以前は平成21年にペレン福岡県人会から引率者として参加しました。このプログラムの内容は毎年変わりますが、目的は同じで、日本の文化、生活、子どもたちの触れ合いを大切にしています。私も当時、日本についてもっと知りたいという気持ちが高まり、今回は留学生として参加することができました。

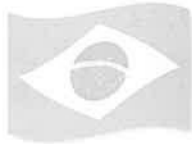
今年は、ブラジル、ペルー、コロンビア、パラグアイ、メキシコ、ボリビアとアメリカから参加がありました。着いた日の翌日から、本格的にプログラムが始まり、太宰府天満宮、福岡県知事公舎、安川電機ロボット工場、博多山笠祭りを見学したり、那珂小学校と大島小学校では実際に日本の小学校生活を体験したりして、良い経験になったと思います。

最初に子どもたちが福岡空港に到着したときは、まだ何もわからないまま日本に着いたという表情が顔に出ていました。しかし、彼らは様々な国の友達に出会って、言葉の壁を超えて一緒に遊び、食事をして、一日一日を楽しく笑顔で過ごしました。子どもたちには忘れられない思い出がたくさんできたと思います。引率者と子どもたちと出会えたこと、そして多くの経験をさせていただけたことに、本当に感謝しています。



大友 池部 ルシアーネ

OTOMO IKEBE LUCIANE



【ブラジル福岡県人会】

海外福岡県人会子弟招へい事業は私にとって、とても良い経験になりました。短期間でしたが、福岡の観光地を訪ねたり、文化を学んだり、美味しい食事を食べたり、新しい友達を作ることができました。

福岡に到着した日から、子どもたちは長旅だったのにも関わらず、元気で楽しそうでした。このプログラムにはいろいろな国の子どもたちが参加しており、ほとんどの子どもは母国語しか話せませんでしたが、最後には友達になって一緒に遊んでいました。また、スケジュール内容は楽しくて良い思い出になりました。全てのプログラムが良かったのですが、一番驚いたのは那珂小学校との交流の1日でした。日本の小学生はほぼ一日学校で過ごし、一緒に給食を食べて掃除をして、各クラス内で動物を飼ったりもしています。また、竹下太鼓グループとの交流では、初めて和太鼓を叩きました。ブラジルに帰ったら、太鼓のグループに参加したいと思っています。大島小学校では、小学生と一緒に遊んで、大島山笠に参加できたことが、とても貴重な体験となりました。

私自身は、このプログラムに参加することによって、福岡の文化、伝統、料理、方言など、もっと知りたくなりました。引率者や子どもたちも、「日本にもう一度来たい」という気持ちが強く残ったようでした。このような機会をいただき、福岡県と国際交流センターの皆様から感謝いたします。

福岡県の海外県人会について

福岡県の海外移住

(1) 海外移住の始まり

明治18年（1885年）のハワイ移住により始まりました。

(2) 海外移住者総数（自由移民を含まず）

戦前（明治32年から昭和16年） 51,240人（全国比7.8%）

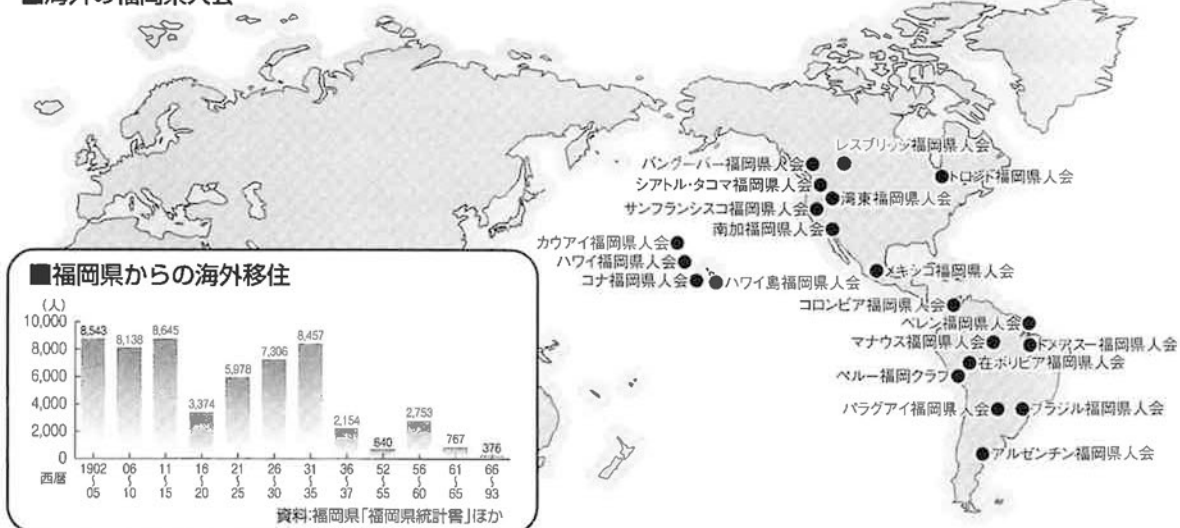
戦後（昭和27年度から平成5年度） 4,536人（全国比6.2%）

※戦前・戦後計 55,776人（全国第4位）

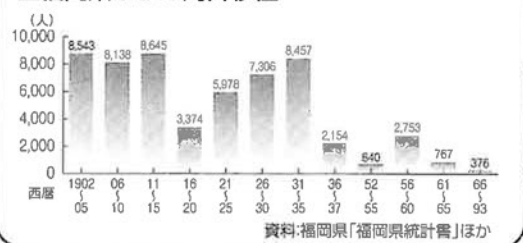
第1位	広島	98,975人
第2位	沖縄	79,454人
第3位	熊本	72,699人
第4位	福岡	55,776人
第5位	山口	47,430人

海外の福岡県人会

■海外の福岡県人会



■福岡県からの海外移住



アルゼンチン共和国	アルゼンチン福岡県人会	カナダ	トロント福岡県人会	アメリカ合衆国	ハワイ島福岡県人会
ボリビア多民族国	在ボリビア福岡県人会		バンクーバー福岡県人会		カウアイ福岡県人会
ブラジル連邦共和国	ベレン福岡県人会	コロンビア共和国	コロンビア福岡県人会		コナ福岡県人会
	ブラジル福岡県人会	メキシコ合衆国	メキシコ福岡県人会		南加福岡県人会
	マナウス福岡県人会	パラグアイ共和国	パラグアイ福岡県人会		サンフランシスコ福岡県人会
カナダ	トマスス福岡県人会	ペルー共和国	ペルー福岡クラブ		シアトル・タコマ福岡県人会
	レスブリッジ福岡県人会	アメリカ合衆国	ハワイ福岡県人会		湾東福岡県人会

海外県人会 9ヶ国21県人会

海外福岡県人会子弟招へい事業 実施要綱

(目的)

第1条 海外福岡県人会会員の子弟を本県へ招へいし、様々な体験を通じ、福岡・日本に対する関心や興味を高め理解を促すことにより、今後の県人会活動の一翼を担い、福岡・日本との交流の核となる後継者を育成すること、併せて県人会の活性化を図るものである。

(事業の実施)

第2条 この事業は、関係機関で構成する海外福岡県人会子弟招へい事業実行委員会（以下「実行委員会」という。）が実施する。

2 実行委員会は、国際交流局交流第二課長、青少年課長、義務教育課長、財団法人福岡県国際交流センター専務理事をもって組織する。

3 実行委員会の委員長（以下「委員長」という。）は、財団法人福岡県国際交流センター専務理事をもって充てる。

(会議)

第3条 実行委員会は、委員長が必要に応じて開催する。

2 実行委員会は、第4条に規定する事業について協議し、決定する。

(事業)

第4条 実行委員会は、海外福岡県人会子弟招へい事業（以下「招へい事業」という。）の実施にあたり、次のことについて協議し、決定する。

(1) 事業計画と事業予算の決定

(2) 招へいする子弟及び引率者（以下「招へい者」という。）の決定

(3) その他、この事業の実施に関し必要と認められる事項（招へいする子弟の条件）

第5条 子弟は次の各号に掲げる条件を備えるものとする。

(1) 招へい事業の目的を理解していること

(2) 海外福岡県人会会員の子弟であること

(3) 年齢は招へい期間中に原則満11歳であること

(4) 各自で親戚宅等のホームステイ先を原則確保できること

(5) 心身共に健康であること

(6) 日常の身の回りのことが一人でできること

(7) 自国の文化や社会、生活様式について紹介ができること

(8) 募集要項に定める注意事項を遵守できること

(9) 以前に当プログラムに参加したことがない子弟であること

(引率者の参加条件)

第6条 招へいする子弟は引率者が帯同するものとする。

2 引率者は次の各号に掲げる条件を備えるものとする。

(1) 招へい事業の目的をよく理解していること

(2) 招へい期間を通じて子弟の指導や援助ができること

(3) 海外福岡県人会の会員であること

(4) 招へいする子弟の原則祖父母、父母、兄、姉、伯父（叔父）、伯母（叔母）ではないこと

(5) 年齢は招へい期間中に原則20歳以上50歳未満であること

(6) 日本語でコミュニケーションがとれ、子弟とホストファミリーその他の関係者との間の通訳ができること

(7) 各自で親戚宅等のホームステイ先を原則確保できること

(8) 事業終了後、海外福岡県人会活動に積極的に参加すること

(9) 以前に当プログラムに参加したことがない引率者であること

(申請書の提出)

第7条 招へい事業の参加希望者は、招へい事業参加申請書（様式第1号）もしくは引率申請書（様式第2号）に親権者の承諾書（様式第3号）を添え（親権者の承諾書の添付は子弟の場合のみ必要）、海外福岡県人会長（以下「県人会長」という。）に提出しなければならない。

2 県人会長は、前項の申請者の提出があったときは、推薦書（様式第4号）を添えて、委員長に提出するものとする。

(招へい者の決定)

第8条 委員長は、実行委員会の中に、招へい者を決定するため、海外福岡県人会子弟招へい者等選考委員会（以下「選考委員会」という。）を設置する。

2 委員長は、選考委員会の選考結果の報告を受け、実行委員会で招へい者を決定する。

3 委員長は、招へい者を決定した場合、すみやかに招へい者に対し、県人会長を通じて、招へい事業参加決定通知書（様式第5号）を交付する。

(選考委員会)

第9条 前条の選考委員会の委員は、国際交流局交流第二課長と財団法人福岡県国際交流センター専務理事とする。なお、必要に応じて委員長が別途委員を指名することができる。

2 選考委員会は委員長が必要に応じて開催する。

(経費)

第10条 招へい者の往復の航空運賃及び福岡での滞在に係る経費については、実行委員会が負担する。

(事務局)

第11条 実行委員会及び選考委員会の事務を処理するため、事務局を財団法人福岡県国際交流センターに置く。

2 事務局長は財団法人福岡県国際交流センター事務局長をもって充てる。

(その他)

第12条 この要項に定めるもののほか、実行委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成20年1月17日より施行する。

附 則

この要綱は、平成21年2月17日より施行する。

附 則

この要綱は、平成22年2月8日より施行する。

Short Term Visit Program
for Young Descendants of Immigrants
from Fukuoka Prefecture 2011.7.10~20

平成23年度 海外福岡県人会子弟招へい事業報告書

主催◎海外福岡県人会子弟招へい事業実行委員会

発行◎平成23年12月